京に薨去、享年六十六。神式を以て晉羽殿國寺の墓地に葬つた。諡號はない。

マヘダトシアリ　前田利有　→マヘダハルナガ　前田治脩。

マヘダトシイヘ　前田利家　(一)能登入封以前—利家は利春の四男、母は長齡院。天文七年十二月廿五日尾張荒子に生まれた。幼名犬千代。二十年初めて織田信長に仕へ、田五十貫を受け、八月振甲の禮を擧げた。是の月、信長織田彦五郎と尾張海津に戰ひ、利家は之に從うて首級を獲た。廿三年名を孫四郎と改め、弘治二年信長の弟信行の叛した時、稻生に戰うて先登し、宮井勘兵衛の爲に右眼の下を射られたが、遂に之を殪して百貫の地を加賜せられた。永祿元年又浮野に戰うて敵を斫り、同年通稱を又左衛門と改め、二年信長の同朋十阿彌を殺害して譴を得た。この年利家の長女幸姬が生まれた。三年五月今川義元桶狹間に陣し、十九日信長の之を襲うた時、利家は私に從軍して首級三を獲た。是の年七月十三日父利春歿して、兄利久家を襲いだ。四年五月信長美濃を征し、齋藤龍興の部將日比野下野等と森部に戰うたが、利家また私に出陣し、十四日下野の與力にして首取足立の名があつた足立六兵衛外一人を倒したので、信長は初めて前非を宥し、三百貫の地を與へた。五年五月信長復美濃に入り、齋藤龍興と戰うたが、利家は牧村半助・稻葉又右衛門と鋒を交へて功があり、七年八月信長の龍興を稻葉城に圍んだ時には、森長可等と共に先登して之を陷れた。信長乃ちこゝに移つて、邑名を岐阜と改めた。十年信長旗下を擇んで赤幌・黑幌の士を置くや、利家は赤幌の一員に列し、十一年九月近江箕作城に佐々木義弼を攻めて創を被り、十二年八月伊勢大河內城に北畠具敎を討つた。この年利家、信長の命により、兄利久に代つて前田氏の本宗を襲ぎ、前祿を合はせて二千四百五十貫を領した。この相續に就いては加賀藩史藁に、利久は瀧川利太を養うて子となし、弟安勝の女を配して家を繼がしめんとしたが、信長之を聞き、前田氏は他姓の者をして承けしむべきでない。利家我に仕へて偉勳があるから、宜しく彼をして主たらしむべきであると主張したによると考定してゐる。元龜元年四月廿五日信長の軍朝倉義景に圍する手筒山城を攻めた時には、城兵能く防ぎ、利家は危地に陷つたが、その臣村井長頼に救られて漸く難を脫し得た。是の日手筒山陷り、翌日朝倉景恒を金ヶ崎城に攻めるや、利家又福富平左衛門行淸と共に力戰した。九月信長本願寺顯如を石山に攻め、下間興四郎が突擊して織田氏の將野村越中守を倒した時には、攻圍軍大に敗れたが、利家は森口堤上に敵の數騎を斬つて頽勢を挽回した。因つて僚友之を賞して天下第一の鑓と呼び、信長は近江長濱壹萬石を賞賜した。同年淺井・朝倉二氏の兵叡山の衆徒を賴んで山上に據つたので、信長は利家に命じ、柴田・丹羽・佐々等諸將と共に攻めしめたが、十二月和議成立した。二年九月利家又柴田勝家等と、近江金ヶ森の賊を擊つて功があつた。三年七月信長近江に入り、淺井長政の麾下に屬する阿閉淡路守の山本城を攻めて、將に納馬せんとした際、殿將勝家は淺井勢の追擊を受けたから、信長は利家に命じて救援せしめた。利家乃ち村井長頼・木村三藏・小塚藤右衛門等と共に進んで交戰し、勝家をして脫して歸ることを得しめた。天正元年八月信長が朝倉義景を征した時、利家は引田口に先陣し、刀禰坂に於いて敵將一人を獲た。義景の滅びたのは此の時である。同年九月淺井長政の小谷城を陷落せしめた時にも、利家は諸將と共に戰功があつた。十一月信長、利家等に命じて、三好義繼を河內若江城に滅さしめた。二年七月利家尾張長島の役に從ひ、三年五月信長が三河の長篠に於いて武田勝頼と戰ふや、利家は鐵炮足輕を率ゐて活躍し、朱武者弓削某を斬つた。同年八月信長越前に一向一揆を討ち、九月廿三日その八郡を柴田勝家に、大野郡を金森五郎八長近及び原彦次郎政茂に、府中の周圍丹生・今立二郡の十萬石を前田利家・佐々成政・不破光治に與へた。十萬石は三人の均分する所であつた。五年八月信長は畠山氏の七尾城が上杉謙信に包圍せられるを以て、救援の兵を加賀に進め、利家も勝家の部將として從うたが、既に陷落したことを聞いて退却した。六年荒木村重の信長に叛した時は、十一月利家等摂津に行き、敵將中川淸秀を茨木城に攻めて降らしめ、七年十二月村重の族人が京師に戮せられるに際し、利家は不破光治と共にその事を監した。八年六月羽柴秀吉は鳥取城を攻め、利家亦之に從うた。九年二月信長大馬揃の儀を內裏に行ひ、正親町天皇の叡覽に供し奉つたが、利家もその盛典に與つた。三月上杉景勝越中小出城を襲ひ、信長は利家等に之を救はしめたが、景勝は兵を退けたから交戰しなかつた。同月廿六日信長は、利家及び菅屋九右衛門長頼・福富平左衛門行淸をして、往きて能登の國政を管せしめた。これ前年温井景隆・三宅長盛が降を織田氏に容れた爲で、長頼は三人中の筆頭として七尾に、利家は菅原に、行淸は富木に館した。この年八月十七日信長は利家に能登一國を與へ、利家は鹿島郡小丸山に築いて之を居城とし、それを畠山氏居城の名を取つて七尾と改め稱した。

(二)能登入封以後—天正十年三月信長は武田勝頼と開戰したが、勝頼は信長が歿したとの虛傳を流布し、越中の一揆小島六左衛門等をして、富山城主神保越中守長住を圍ましめたので、利家は勝家以下諸將と共に、往きて小島等を平定した。時に上杉景勝の將尻高左京・鐵孫左衛門等魚津城に據つたから、利家等また赴き圍んだが、城兵援を景勝に請うた爲、上杉氏の勢は天神山に來り陣した。是を以て日を期して之を攻擊せんとしてゐた際、景勝は信越國境に事の起るべきを恐れて班軍したから、利家等魚津城に迫り、六月三日城兵をして悉く自刄せしめた。而して京都に於いて明智光秀の信長を横死せしめたのは、この前日であつたのである。利家報を得て五日七尾に納馬したが、幾くもなく先に越後に逃れて景勝の保護を得た温井景隆・三宅長盛は、機に乘じて能登を復せんとし、石動山に入つて衆徒と共に兵を擧げた。利家乃ち金澤城の佐久間盛政に援を求め、盛政は荒山の麓を陷れ、利家は石動山を攻めて、悉く敵を壓にした。この戰は舊說に六月廿六日とするが、七月下旬であつたらしい。既にして柴田勝家は秀吉の勢力の勃興を憎んだが、伴つて暫く和せんと欲し、十月廿五日利家・不破直光及び金森長近に秀吉に使せんことを請うた。(この時利家は府中に居たと見える。)利家之を容